

秩父演習林公開講座開催の成果と展望（1997～2003年）

澤田 晴雄*・五十嵐勇治*

Result and View of the Open Seminar in University Forest in Chichibu,
The University of Tokyo (1997-2003)

Haruo SAWADA* and Yuji IGARASHI*

I. はじめに

近年、多くの人々が森林を深く理解したいと考え、自然を守り環境を大切にすることに関心を持つようになり、森林に接する多様な機会を求めている。こうした社会情勢のなか秩父演習林としても社会に開かれた大学の施設として演習林で行っている試験・研究を理解してもらう必要性を痛感し、またこれからの時代のなかで演習林が地域に果たせる役割を模索し始めている。その一環として一般市民が森林へ実際に足を踏み入れ、森や木に触れて、森林生態系のしくみや森林・林業と人の関わりについて学ぶ体験型イベントを'97年より開催するようになり、'03年までに一般市民を対象とした公開講座（以下、一般講座と略す）を9回、小・中学生とその保護者を対象とした公開講座（以下、小・中講座と略す）を6回、秩父山地の山岳地帯を歩きながら森林について学ぶエコツアー型公開講座（以下、エコ講座と略す）を1回、計16回の公開講座を行ってきた。そこでこれまで行ってきた公開講座の目的、募集方法、内容、受講者の属性、アンケート結果から得られた知見をまとめ、今後の課題を検討したのでその結果を報告する。

2. 公開講座の開催状況

秩父演習林の公開講座は'97年と'98年に各1回、'99年と'00年に各2回、'01年と'02年に各3回、'03年に4回の計16回行い、延べ401名が受講した。男女比は男性が55%、女性が45%であった（表-1）。年度別受講者数の推移は'97年が19名、'98年が25名、'99年が81名、'00年が26名、'01年が73名、'02年が99名、'03年が78名であった。

* 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林
University Forest in Chichibu, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo.

表-1 受講者数の推移と男女比

	Type	男	女	計	男(%)	女(%)	年度別	計
'97春	一般	7	12	19	37	63	1997	19
'98春	一般	9	16	25	36	64	1998	25
'99春	一般	10	9	19	53	47	1999	81
'99夏	小・中	39	23	62	63	37		
'00春	一般	7	8	15	47	53	2000	26
'00夏	小・中	8	3	11	73	27		
'01春	一般	15	8	23	65	35	2001	73
'01夏	小・中	6	14	20	30	70		
'01秋	一般	16	14	30	53	47		
'02春	小・中	9	9	18	50	50	2002	99
'02夏	小・中	19	14	33	58	42		
'02秋	一般	34	14	48	71	29		
'03春	一般	11	18	29	38	62	2003	78
'03エコ	エコ	1	3	4	25	75		
'03夏	小・中	6	4	10	60	40		
'03秋	一般	23	12	35	66	34		
合計		220	181	401	55	45		

表-2 対応した職員数

	Type	技官	教官	事務官	外部講師	職員数計	受講者	受講者/職員数
'97春	一般	2	5	1	0	8	19	2.4
'98春	一般	4	3	0	0	7	25	3.6
'99春	一般	6	3	0	0	9	19	2.1
'99夏	小・中	6	3	3	0	12	62	5.2
'00春	一般	7	3	0	0	10	15	1.5
'00夏	小・中	4	3	0	0	7	11	1.6
'01春	一般	4	1	0	0	5	23	4.6
'01夏	小・中	5	2	0	0	7	20	2.9
'01秋	一般	6	1	0	0	7	30	4.3
'02春	小・中	7	2	0	0	9	18	2.0
'02夏	小・中	5	3	0	0	8	33	4.1
'02秋	一般	14	3	0	0	17	48	2.8
'03春	一般	4	2	0	0	6	29	4.8
'03エコ	エコ	6	0	0	0	6	4	0.7
'03夏	小・中	3	2	0	3	8	10	1.3
'03秋	一般	8	2	0	0	10	35	3.5
合計		91	38	4	3	136	401	2.9

現地で対応した職員の数(表-2)、受講者が62名であった'99夏が12名、受講者が48名であった'02秋が17名で、それ以外は5~10名の職員で対応した。各公開講座で職員一人当たりが対応した受講者の数は0.7~5.2名で、平均すると2.9名であった。

なお公開講座の企画・募集・実行については、'97年と'98年は教官の主導で行われていた。その後'99年～'01年はその時々で担当者を決めて行われるようになり、'02年と'03年は試験掛内にて年間計画を立てて各講座の担当者を決めて行っている。

2.1. 一般講座

2.1.1. 目的と募集方法

一般講座はこれまで表-3に示すように計9回開催した（以下、それぞれ'97春、'98秋、'99春、'00春、'01春、'01秋、'02秋、'03春、'03秋と略す）。目的は一般市民に秩父演習林の概要、活動内容、試験・研究の取り組みや成果を知ってもらうことで、同時に森林や林業について正しく理解してもらうことである。

一般講座の募集人数は通常演習林所有のマイクロバス（定員28名）で案内するため'02秋と'03秋を除き25名以下とした。なお'02秋と'03秋はマイクロバス以外に演習林所有の乗用車や参加者の自家用車による移動を前提とし、それぞれ75名、40名を募集した。

募集方法（表-3）は募集要綱を秩父市発行の広報誌、埼玉県発行の広報誌、大滝村発行の広報誌にそれぞれ掲載して行った。また、'99夏以降は秩父地域の様々な情報を発信するホームページである“Web Guide 秩父”(<http://www.chichibu.co.jp/topic/index.htm>)に、'02夏以降は秩父演習林のホームページ(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chichibu/>)に、それぞれ募集要綱を掲示した。ほかには一般新聞の地方版、雑誌のホームページ、ポスターの掲示などを行った。

広報誌やホームページには日時、開講場所、集合場所、案内、内容、定員、締め切り、申し込み・問い合わせ等の基本的な情報を掲載した。申し込み先着順としていたが、'01秋に募集25名に対して123名もの募集があったことと、掲載される情報誌の発行日が異なることから参加申し込みが公平に行えるように'02春以降は抽選により受講者を決定することとした。申し込み方法は受講希望者が氏名、性別、年齢、住所、電話番号を、'01秋までは電話で申し込み、'02秋と'03春は往復ハガキのほかEメールとFAXでの申し込みも可とし、'03秋は申し込み方法を往復ハガキだけとした。なお抽選とした'02秋以降は抽選結果、当選者に対しては集合場所・日程・持ち物など詳細を、往復ハガキで申し込んだ希望者に対しては返信ハガキで、EメールもしくはFAXで申し込んだ希望者に対してはそれぞれEメールもしくはFAXで通知した。

2.1.2. 内容とスケジュール

一般講座の多くは当日受付と開校式を秩父事務所でを行い、演習林の概要説明をマイクロバス移動中に行った。これまでに行った一般講座の内容を表-4に示す。開講場所は'99春と'03春が大血川管内である以外は栃本管内で行った。マイクロバスでの移動に大血川が片道40分、栃本が片道1時間を要するので、移動時間を除いた現地での滞在時間はどの回も4～5時間の範囲であった。

秩父演習林として初めての公開講座となった'97春の一般講座では、それまで秩父演習林の試

験・研究を一般市民に紹介する機会がほとんどなかったため、演習林の活動をできるだけ理解してもらおうという思いが強くなってしまい講義中心の公開講座で、内容も盛りだくさんとなってしまった(表-4)。そのため受講者から「時間的に忙しかった」、「もっと具体的な内容を」などの

表-3 一般講座の開催日、応募状況、募集方法、応募方法

開催年 開催日 略称	1997 5/23(金) '97春	1998 5/16(土) '98春	1999 5/23(日) '99春	2000 6/17(土) '00春	2001 5/26(土) '01春	2001 11/3(土) '01秋	2002 11/1(金) '02秋	2003 4/19(土) '03春	2003 11/7(金) '03秋
秩父市教育委員会後援 埼玉県教育委員会後援	○	○	○	○	○	○	○	○	○
開催地区	栃本	栃本	大血川	栃本	栃本	栃本	栃本	大血川	栃本
対象者	一般市民	一般市民	一般市民	一般市民	一般市民	一般市民	一般市民	一般市民	一般市民
参加費	無料	無料	無料	無料	100円	100円	200円	200円	200円
募集人数	25	25	25	25	25	25	75 (バス25)*	25	40
応募者数	22	26	22	20	28	123 (バス42)	77 (バス42)	182	39
抽選方法	先着順	先着順	先着順	先着順	先着順	先着順	抽選	抽選	抽選
当選者数	22	26	22	20	28	33 (バス25)	60 (バス25)	32	39
出席者数	19	25	19	15	23	30 (バス18)	48 (バス18)	28	35
当日の天気	小雨	晴れ	晴れ	曇のち小雨	晴れ	曇のち雨	くもり	晴れ	晴れ
募集方法									
秩父市報	○	○	○	○	○	○		○	○
埼玉県報						○	○	○	
大滝村報									○
新聞(埼玉, 読売, 朝日)								○	
テレビ埼玉									
Web Guide 秩父				○	○	○	○	○	○
秩父演習林ホームページ							○	○	○
Be-pal ホームページ									
科学の森ニュース						○	○		○
学校への要綱配布									
ポスター掲示					○		○		
何を見て募集したか									
秩父市報	22	26	22	20	27	0		1	25
埼玉県報						21	45	18	
大滝村報									1
新聞(埼玉, 読売, 朝日)								1	
Web Guide 秩父				0	1	6	0		0
秩父演習林ホームページ							2	2	7
Be-pal ホームページ									
科学の森ニュース						0	0	0	
学校での要綱配布									
ポスター掲示					0		1		
友人の紹介								6	2
事務所問い合わせ						6			
応募方法									
電話	22	26	22	20	27	117	2	1	
往復ハガキ							34	90	39
FAX							19	87	
E-mail				0	1	6	22	4	
学校を通じて									

* ただし、2002秋の募集定員はバス希望者25名、現地集合可能な方50名、計75名とした。

表-4 一般公開講座の内容

開講場所	滞在時間	テーマ	講義の内容
1997 春 栃本	4 時間	奥秩父の森林と木のはたらき	温帯山岳林の森林生態系 植物と季節変動 森林の動物生態 枝打作業の実演 集材作業の実演 記念植樹 国道 140 号開設工事関連 樹木園見学
1998 春 栃本	4 時間	奥秩父の森林と木のはたらき	大滝村史と林業のかかわり (バスで移動中) 原生林と林道周辺の植生 ウグイスのさえぎり 植樹及び人工林の育成 複層林と間伐
1999 春 大血川	5 時間	奥秩父の森林と木のはたらき	炭焼きがまの仕組みと木酢液の効用 炭焼き体験 路網と施業 ニホンジカによる若齢造林木への食害とその防止方法 溪畔林の生態系
2000 春 栃本	4 時間	奥秩父の森林と木のはたらき	森林について 下刈りと間伐について 下刈り, チェンソー体験 複層林と密度試験地 森林情報データベース 大面積プロット (雨のため追加課題)
2001 春 栃本	5 時間	秩父演習林のブナ林を学ぶ	林道を歩きながら植物採取・講義 大面積プロット内のブナ林 子ども樹木博士 植物標本の作製
2001 秋 栃本	5 時間	奥秩父のカエデを楽しもう	歩道を歩きながら植物採取・講義 しおりの作製
2002 秋 栃本	5 時間	大学の森で学ぼう	下刈り, 枝打ち, 伐木の実演と講義 しおりとコースターの作製 モノレール体験乗車 樹木園の散策
2003 春 大血川	5 時間	森の花を観察しよう!	林道, 歩道を歩きながら植物観察 大血川東谷溪谷沿いを散策
2003 秋 栃本	5 時間	紅葉の入川軌道を歩こう	紅葉のしくみ 樹木観察 入川軌道の歴史 入川溪谷沿いを散策

意見や要望があった。そこで '98 春以降, 演習林の概要説明や試験・研究の紹介だけでなく, ヒノキ植付け体験, 炭焼き体験, 下刈り・チェーンソー体験など林業体験をしたり, 森林を散策しながら秩父演習林職員と参加者が雑談的に話しながら講義を進めたり, しおりやコースターの作製をプログラムに組み込むようになった。

2.1.3. 受講者の属性

一般講座の年度別の受講者数は(表-1), '97年が19名, '98年が25名, '99年が19名, '00年が15名, '01年が53名, '02年が48名, '03年が64名, 合計243名の参加があった。性別で見ると男性が54%, 女性が46%で, 男性がやや多かった。

一般講座受講者の年齢構成を図-1に示す。一般講座では50歳以上の受講者の割合が58~94%と多く, '02秋以降は85~94%と特に高かった。なお一般講座の受講者全体に占める50歳

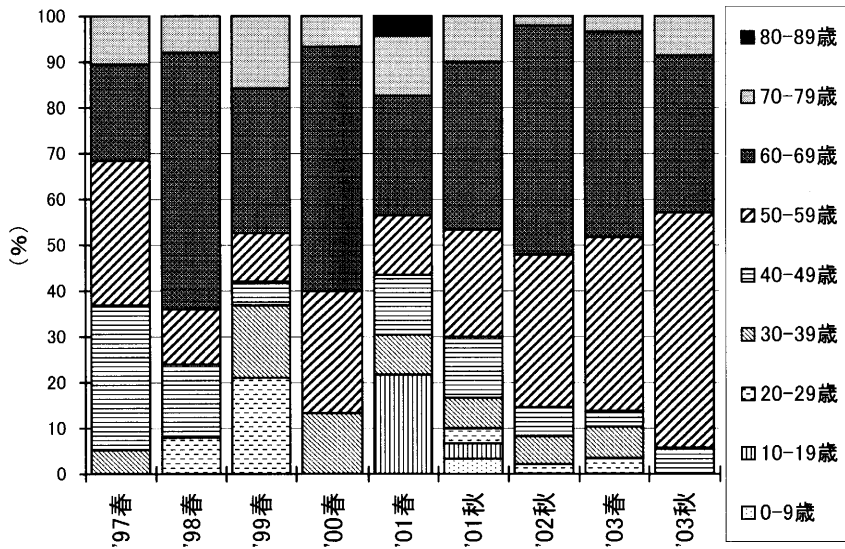


図-1 一般講座 年齢階別受講者割合の推移

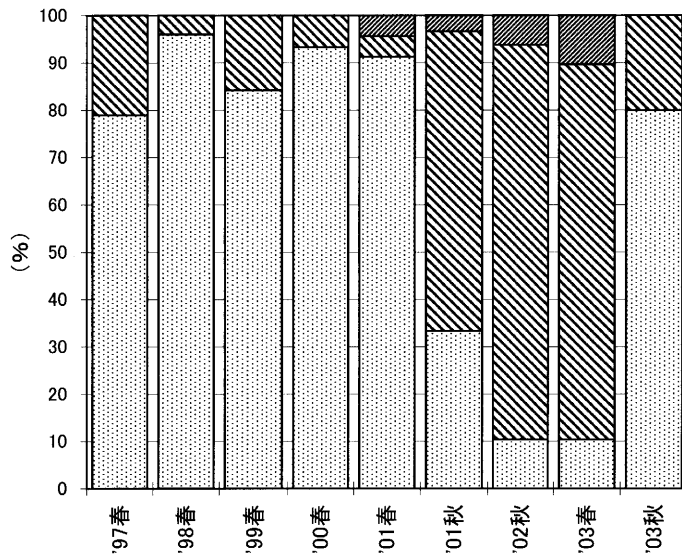
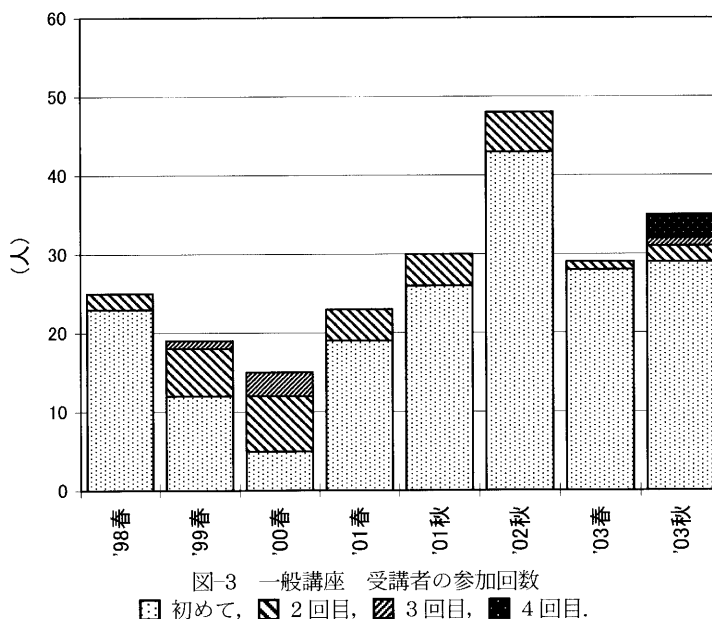


図-2 一般講座 受講者の住所
 ■ 秩父郡市内, ■ 県内他地域, ■ 県外.



以上の割合は77%であった。

受講者の在住地を図-2に示す。'97春～'01春と'03春は募集が主に秩父市広報を通じてであったので受講者の79～96%が秩父郡市内在住者であった。そこで'01秋、'02秋、'03春の3回は秩父市報のほか埼玉県報や新聞にも募集要項を掲載してより広い地域から受講者を募った(表-3)。その結果、秩父郡市以外からの受講者の割合が67～90%と高く、埼玉県報や新聞による募集効果が認められた。なおWeb Guide 秩父、秩父演習林ホームページなどインターネットを通じて応募した受講者は'00春～'03秋まで合計21名であった。

受講者の参加回数の推移を図-3に示す。公開講座に2回以上参加した受講者の割合は'98春が8%、'99春が37%、'00春が67%、'01春が36%で、再受講者の割合が高くなっていった。そこで埼玉県報や新聞に募集要項を掲載して受講者を募ったが、その結果'01夏～'03春の再受講者の割合は、'01秋が20%、'02秋が15%、'03春が3%、'03秋が17%と低くなり、埼玉県報や新聞に掲載することにより初めて受講する人の割合が高くなっていった。

2.1.4. アンケート集計結果

一般講座でのアンケートは表-5に示すように、これまで計8回行っている。アンケートは現地

表-5 一般講座 アンケート回答数

	'97春	'98春	'99春	'00春	'01春	'01秋	'02秋	'03春	'03秋	合計
参加者数	19	25	実施せず	15	23	30	48	29	35	224
回答数	18	25	実施せず	15	21	30	48	25	35	217
回答率(%)	95	100	実施せず	100	91	100	100	86	100	97

表-6 一般講座におけるアンケート質問事項

	'97春	'98春	'00春	'01春	'01秋	'02秋	'03春	'03秋	質問回数
参加した動機は？			○	○	○	○	○	○	6
良かった点は？	○								1
良かったプログラムは？		○		○	○				3
満足度は？(5段階)			○	○	○	○	○	○	6
公開講座を何で知ったか？						○	○	○	3
演習林を知っていたか？		○							1
演習林に来たのは何回目？						○	○	○	3
1年間に何回森へ行くか？		○							1
職員の対応や説明は？						○	○	○	3
今後希望する内容は？			○	○	○	○	○	○	6
次どの季節に来たいか？					○				1
改善点を上げてください	○								1
参加費はいくらが妥当か？						○	○	○	3
他にご意見・ご要望は？	○	○	○	○	○	○	○	○	8
年齢・性別・在住地域は？						○	○	○	3
質問数	3	4	4	5	6	9	9	9	

表-7 一般講座 アンケート結果：参加した動機は？(複数回答可)

(人)	'00春	'01春	'01秋	'02秋	'03春	'03秋	合計
森林を学びたい	4	7	3	36	8	1	59
樹木を学びたい		4	5	5		22	36
動物・昆虫を学びたい							0
森林と水、魚の関係	1						1
自然観察がしたい	2	2	3	17	19	25	68
自然環境を学びたい	1			2	2		5
林業を学びたい	4			27	3	5	39
秩父演習林を知りたい	1		6	1			8
知識を増やしたい				2			2
山歩きがしたい		8	5	14	8	30	65
友人・知人に誘われて	3	1	2				6
前回楽しかったから	1		2				3
広報を見て	2	4	4				10
合計	19	26	30	104	40	83	302

でのプログラムの最後にアンケートの時間を設けて行い、その場ですぐに回収した。アンケートの回答率は86～100%であった。

質問事項を表-6に示す。質問数は'97春では3問であったがその後徐々に増え、'02秋以降は9問となっている。質問事項でこれまで3回以上出されたものは、「参加した動機は？」、「良かったプログラムは？」、「満足度は？」、「公開講座を何で知ったか？」、「演習林に来たのは何回目？」、「職員の対応や説明は？」、「今後希望する内容は？」、「参加費はいくらが妥当か？」、「他にご意見・ご要望は？」、「年齢・性別・在住地域は？」の10項目であった。なお'02秋以降はほぼ同じ内容のアンケートを行っている。

アンケートの集計結果を表-7～9, 図-4 に示す。「参加した動機は? (複数回答可, 選択+記入)」で回答数が30以上(表-7)であったのは「森林を学びたい」「樹木を学びたい」「自然観察がしたい」「林業を学びたい」「山歩きがしたい」であった。なお'02秋では「森林を学びたい」が35名と多く、'03秋では「樹木を学びたい」が22名と多かったが、'02秋は1時間ほど森林を歩くだけで歩きながらの講義は行わなかったため「森林を学びたい」という総括的な意見が多く、'03秋は5時間たっぷり森林を歩きながら紅葉と樹木についてを中心とした講義であったため「樹木を学びたい」という具体的な意見が多かったと考えられた。また一般講座では「動物・昆虫を学びたい」が0名であったが、これまで一般講座では動物や昆虫、鳥類に関する内容を中心とした講座を開催していなかったためだと考えられ、受講した公開講座の内容に回答が影響を受けていることが示唆された。

「満足度は? (5段階)」については(図-4)、「とても満足」が'00春に60%、'01春に62%であった。そこで内容を秩父演習林の活動や試験研究内容の紹介を中心としたものから、森林散策と自然観察が中心の公開講座を'01秋に行ったところ80%と高くなった。'02秋には林業の紹介+森林散策+しおり作りを行ったが内容を盛り込み過ぎたためか35%に低下してしまった。'03春と'03秋に再び森林散策と自然観察が中心の公開講座を開催し'03春は56%、'03秋は57%であった。なお'02夏まで0%であった「少し満足」が'02秋に10%、'03春に3%、'03秋に6%となっており受講者の満足度がやや低下していることを感じた。その理由として'02秋、'03春、'03秋の再受講者の割合はそれぞれ15%、3%、17%と決して高くはないので内容に飽きたためとは考えにくい。受講者の森林に関する知識が年々向上していることや他の施設や機関が開催している類似の公開講座や市民教室に参加したことのある受講者が増えてきたため、内容が初級者

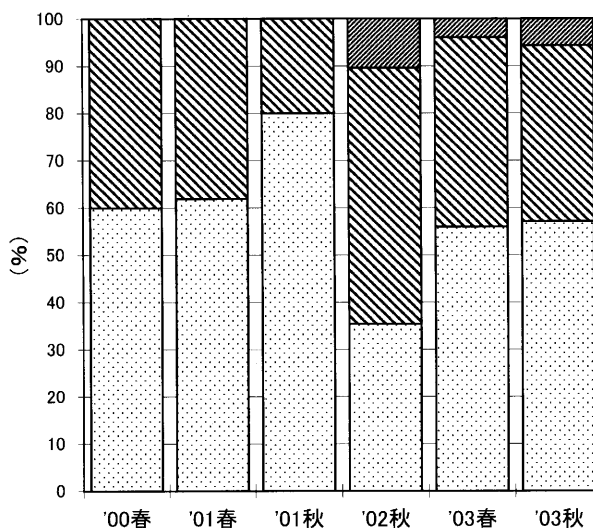


図-4 一般講座 アンケート結果：満足度は? (5段階)

□ とても満足, ▨ まあまあ満足, ▩ 少し満足, ▤ あまり満足なし, ■ 満足なし。

表-8 一般講座 アンケート結果：今後希望する内容は？（複数回答可）

(人)	'00 春	'01 春	'01 秋	'02 秋	'03 春	'03 秋	合計	%
自然観察	14	18	29	40	36	60	197	67
（植物観察）				(34)	(16)	(22)	(72)	(53)
（生物観察）				(14)	(11)	(12)	(37)	(27)
（ハイキング・散策）				(14)	(9)	(26)	(49)	(36)
育林体験	4	8	5	20	8	10	55	19
演習林の試験・研究	4	2	5	15	4	3	33	11
その他	2	0	2	1	1	1	7	2
（林業の将来）	(1)						(1)	
（山の名前）	(1)						(1)	
（炭焼き）			(1)	(1)	(1)		(3)	
（クラフト）			(1)				(1)	
（おまかせ）						(1)	(1)	
合 計	24	28	41	76	49	74	292	100

但し、自然観察の項目は2002秋以降、植物観察、生物観察、ハイキング・散策に分けた。

向きである森林散策と自然観察が中心の公開講座では満足できないことや他の公開講座とは違う個性をアピールできていないことなどが考えられた。

「職員の対応・説明は？（5段階評価）」については'02秋以降質問したが、無回答を除き全て「とても良い(64~100%)」もしくは「良い」で、「少し良い」、「あまり良くない」、「良くない」という答えはなかった。

「今後希望する内容は？（複数回答可、選択+記入）」では(表-8)、「自然観察」が68%と非常に多く、「育林体験」は19%、「演習林の試験研究」は11%であった。なお'02夏以降は「自然観察」をさらに「植物観察」、「生物観察」、「ハイキング・散策」に選択項目を分けてアンケートを取ったところ、'02秋以降「自然観察」と答えた136名に占める「植物観察」、「生物観察」、「ハイキング・散策」の割合は、それぞれ53%、27%、36%であった。

「その他ご意見・ご要望は？（複数回答可、選択+記入）」では(表-9)、「公開講座をつづけて欲しい」、「公開講座の回数を増やして欲しい」、「次回も参加したい」、「別の季節にまた来たい」などの意見の他、'02春以降は申込者が定員を上回った場合抽選としていたので「申込者全員が参加できるようにして欲しい」という意見もあった。内容に関する意見としては「内容が良かった」や「大自然に触れられた」など好意的な意見が多かった。一方、要望や改善点として指摘をいただいた意見としては、'02秋までは「別のテーマについても学びたい」や「もっと詳しく学びたかった」といった内容に関する意見が多かったが、'03春以降は「ボランティアを募ればよい」、「午前と午後で説明者を変えると良いのでは」、「ハンドマイクを持って説明して欲しい」、「山に入る前にもう少しガイダンスが欲しかった」など説明方法に対する具体的な意見が寄せられるようになり、職員のインストラクション技術向上が求められている。

なお'02秋以降のアンケートで「今回200円を徴収いたしました、送迎料は別としていくら

表-9 一般講座 アンケート結果: その他ご意見・ご要望・ご感想など御自由にお書き下さい

(人)	'97春	'98春	'00春	'01春	'01秋	'02秋	'03春	'03秋	合計
つづけて欲しい	7	3	1						11
回数を増やして欲しい	1				3	8	2	1	15
次回も参加したい	4	13		8	8	6	4	1	44
申込者が全員参加できるようにして欲しい								3	3
紅葉の時期に来たい	2								2
別の季節に来たい		3	3		1				7
泊まりのセミナーを開催して欲しい	2					1			3
通年プログラムを開催して欲しい			1						1
全体的に良かった	1								1
体験型プログラムが良かった						1			1
小人数で良かった	1								1
内容が良かった							5		5
説明が良かった	5	14		1	5		1		26
知識を得られた		1			1				2
森林・自然について学べた		7							7
林業について学べた	2	7							9
林業機械を見れた	1								1
森林への関心が増した		2							2
樹木の名前を学べた		1							1
演習林を知ることができた		1							1
研究内容に興味を持った				2					2
最新の研究に触れられた (ビデオ観察)	1								1
大自然に触れられた	11						1		12
演習林に来れた					1				1
個人的に演習林に来たい						1			1
演習林の自然に関する本を出版して欲しい						1			1
普段行けない場所に行けた		2							2
森林散策ができた		4							4
記念植樹ができた		5							5
もう少し具体的な講義内容にして欲しい	2						2		4
山に入る前にももう少しガイダンスが欲しい								1	1
ハンドマイクを持って説明して欲しい								1	1
もう少し歩きたかった		1			1	4		1	7
手軽な散策コースを作って欲しい						1			1
原生林をもっと知りたい			1						1
樹木の名前を学びたかった	1	1				3			5
ブナの育て方を知りたい				1					1
地質について学びたかった	1								1
専門用語が分からなかった	1								1
動物について学びたい				1		1			2
モノレールに乗りたい				1		1			2
植物採取とクラフト作りしたい				1					1
育林体験がしたい						1			1
午前と午後で説明者を変える							1		1
ボランティアを募ればよい							1		1
もっと小人数で詳しい説明を聞きたい					1				1
時間が短かった	2			1					3
下刈りの時間が少ない			2						2
無駄な時間が多かった					1				1
参加費をもっととっても良い							2		2
森林生態系のPRしたら良い			1						1
シカを捕獲し食用したら良い			1						1
行きのバスの中で自己紹介したら良い			1						1
こども樹木博士が難しかった				1					1
埼玉県報でのPRを続けて欲しい					1				1
間伐材の利用に取り組んで欲しい						1			1
里山の産廃問題に取り組んで欲しい						1			1
合計	45	65	11	17	23	31	19	8	219

位が妥当であると思いますか? (選択+記入)」と聞いたところ、'02 秋、'03 春、'03 秋では 200 円が 49% (44~50%)、500 円が 36% (29~35%) と多く、300 円が 9% (3~17%)、無料・100 円・1,000 円・実費・募金制は 4% 以下であった。

2.2. 小・中講座

2.2.1. 目的と募集方法

小・中講座は文部省「大学等地域開放特別事業」のひとつとして小中学生とその保護者・教師を対象に森林や自然に親しみ、日常とは異なる環境・体験の中で子供と親・教師が親睦を深める場を提供すること等を目的に秩父演習林が開催する体験型イベントとして始まり、これまで表-10 に示すように計 6 回開催した (以下、それぞれ '99 夏、'00 夏、'01 夏、'02 春、'02 夏、'03 夏と略す)。

小・中講座の定員は '99 夏が 75 名、'00 夏が 20 名、'01 夏~'02 夏が 25 名、'03 夏が 24 名とした (表-10)。受講者の募集は '99 年が秩父地域の小中学校を回りポスターと要項を配りながら参加を呼びかける方法を行い最終的には 62 名の参加を得た。'00 夏の募集は市民公開講座と同じく秩父市発行の広報誌とインターネットへの要項掲載と、前年受講者への要項送付を行い最終的に 11 名の参加を得た。'01 夏以降は主に広報誌、新聞、ホームページでのみ募集した。なお '03 夏は定員と同じ 24 名の応募があったが、開催を予定していた 8/9~10 が台風のため 8/23~24 に延期したため受講者の都合が合わず、最終的な受講者は 10 名であった。

2.2.2. 内容とスケジュール

小・中講座の内容 (表-11) は、初回の '99 夏は演習林内を見学する内容であったが、'00 夏と '01 夏は「こども樹木博士」、'02 夏と '03 夏は「昆虫類の採取と標本作り」、'02 春は「木登り体験」を中心としたプログラムを組み、'02 夏と '03 夏は夏休みの宿題にもなるような内容とした。なお '03 夏は 1 泊 2 日で夜間の昆虫採集を行い、外部から講師を 3 名 (埼玉昆虫懇話会から 2 名、東京大学森林科学専攻の大学院生 1 名) 招いて内容の充実を図った。

2.2.3. 受講者の属性

小・中講座の年度別受講者数は (表-1)、'99 年が 62 名、'00 年が 11 名、'01 年が 20 名、'02 年が 52 名、'03 年が 10 名、合計 154 名の参加があった。男女比は男性が 56%、女性が 44% で、男性がやや多かった。

小・中講座受講者の年齢構成は (図-5)、受講対象者を小・中学生とその保護者としたため 49 歳以下の割合が全体の 90% であった。受講者に占める小・中学生の割合は、'99 夏が 68%、'00 夏が 64% で保護者 1 人に小・中学生が約 2 人であったが、'01 夏以降は 40~52% で保護者 1 人に小・中学生が約 1 人もしくはそれ以下となっていた。

小・中講座受講者の在住地を図-6 に示す。募集を主に秩父市広報を通じて行った '99 夏と '00

表-10 小・中講座の開催日, 応募状況, 募集方法, 応募方法

開催年	1999	2000	2001	2002	2002	2003
開催日	9/25(土)	9/25(土)	8/5(日)	5/11(土)	8/3(土)	8/23~24
略称	'99夏	'00夏	'01夏	'02春	'02夏	'03夏
秩父市教育委員会後援	○	○	○	○	○	○
埼玉県教育委員会後援			○	○	○	
開催地区	栃本	大血川	大血川	栃本	栃本	栃本
対象者	小・中学生	小・中学生	小・中学生	小・中学生	小・中学生	小・中学生
参加費	無料	無料	無料	200円	200円	2,700円
募集人数	75	20	25	25	25	24
応募者数	63	16	24	35	33	24
抽選方法	先着順	先着順	先着順	抽選	抽選	抽選
当選者数	63	16	24	35	33	24
出席者数	62	11	20	18	33	10*
当日の天気	くもり	晴れ	晴れ	雨のち曇	晴れ	晴れ
募集方法						
秩父市報		○	○	○	○	○
埼玉県報			○	○	○	
新聞(埼玉, 読売, 朝日)				○		○
テレビ埼玉			○			
Web Guide 秩父	○	○	○	○	○	○
秩父演習林ホームページ					○	○
科学の森ニュース				○	○	○
学校への要綱配布	○					
ポスター掲示	○	○	○		○	
何を見て募集したか						
				調査せず		
秩父市報		10	0	?	9	6
埼玉県報			18	?	20	
新聞(埼玉, 読売, 朝日)			0	?		0
Web Guide 秩父	0	0	0	?	0	2
秩父演習林ホームページ					0	0
科学の森ニュース				?	0	2
学校での要綱配布	63					
ポスター掲示	0	0	0		0	
事務所問い合わせ		1	6			
応募方法						
電話	0	11	24			2
往復ハガキ				35	33	22
FAX	0					
E-mail	0	0	0			
学校を通じて	63					

* 2003夏は8/9~10開催予定であったが台風により8/23~24に延期したため参加者が10名となった。

夏は受講者に占める秩父郡市内在住者の割合が100%であった。そのため'01夏以降は埼玉県報や新聞にも募集要項を掲載し, '01夏, '02春, '02夏の秩父郡市以外の受講者割合がそれぞれ70%, 89%, 73%と高くなった。なお'03夏も秩父市報のほか読売新聞にも掲載し, 申込段階での秩父郡市以外の割合は58%と比較的高かったが, 台風による延期のため40%となった。なおWeb Guide 秩父, 秩父演習林ホームページなどインターネットを通じて応募した受講者は'03

表-11 小・中学生公開講座の内容

開講年	開講場所	滞在時間	テーマ	講義の課題
'99 夏	栃本	5 時間	奥秩父の森林と木のはたらき	人工林について 再生林について 原生林について モノレール体験乗車
'00 夏	大血川	5 時間	奥秩父の森林と木のはたらき	大血川林道の森林の散策 植物採取 押し葉標本, しおりの作製 子ども樹木博士
'01 夏	大血川	5 時間	水辺の森林と木のはたらき	大血川林道(溪流沿い)の森林の散策 植物採取 炭焼について 水辺の森林の生態系 子ども樹木博士
'02 春	栃本	5 時間	親子で大学の森へ出かけよう —新緑の森—	人工林と天然林について 木登りの実演と体験
'02 夏	栃本	5 時間	演習林の小さな生き物	森林内の土壌から生物の採取 生物の観察と標本の作製
'03 夏	栃本	1泊2日	真夏の森で昆虫採集をしよう	水生昆虫の採取 夜間昆虫採取 昆虫採取と標本の作製

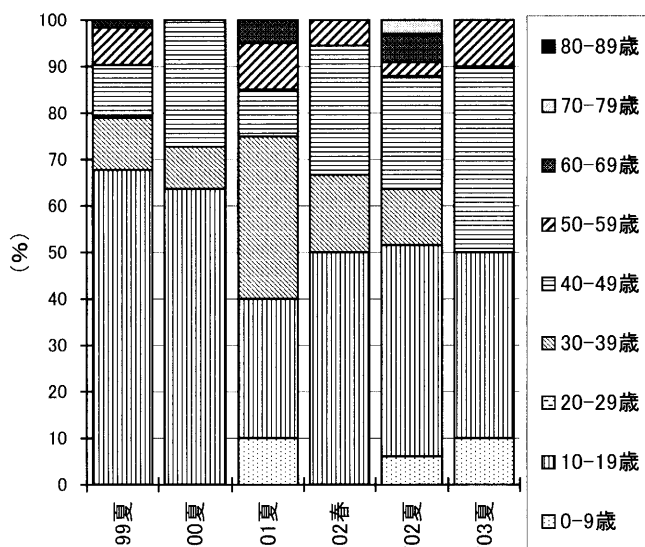


図-5 小・中講座 年齢階別受講者割合の推移

夏の2名であった。

受講者の参加回数を図-7に示す。秩父演習林での公開講座(一般講座を含む)に2回以上参加したことがある再受講者の数はそれぞれ0~6名で、その割合は'99夏が0%, '00夏が36%, '01夏が10%, '02春, '02夏, '03夏が60%であった。なお台風により延期となった'03夏の申込段

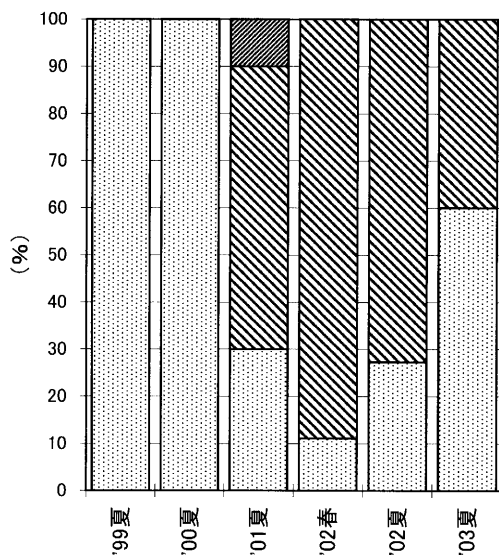


図-6 小・中講座 受講者の住所
 ■ 秩父郡市内, ■ 県内他地域, ■ 県外.

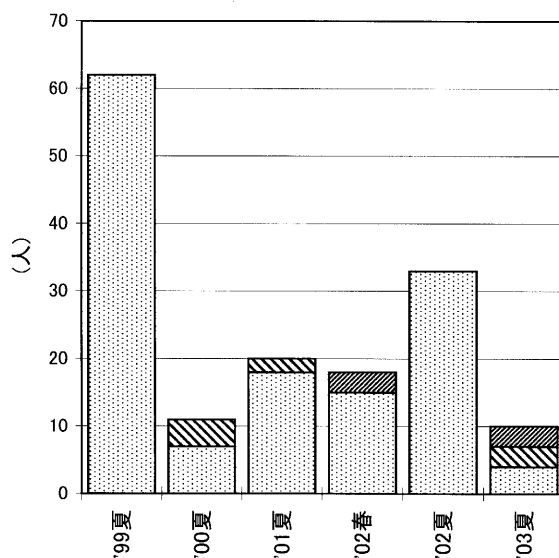


図-7 小・中講座 受講者の参加回数
 ■ 初めて, ■ 2回目, ■ 3回目, ■ 4回目.

階での再受講者の割合は27%であった。

2.2.4. アンケート集計結果

アンケートは表-12に示すように、これまで計4回行っている。アンケートは現地でのプログラムの最後にアンケートの時間を設けて行い、その場ですぐに回収した。アンケートの回答率は88～100%であった。

これまでの質問事項を表-13に示す。質問数は'01春では5問であったがその後徐々に増え、

表-12 小・中講座 アンケート回答数

	'99夏	'00夏	'01夏	'02春	'02夏	'03夏	合計
参加者数	実施せず	実施せず	20	18	33	10	81
回答数	実施せず	実施せず	20	17	29	10	76
回答率(%)	実施せず	実施せず	100	94	88	100	94

表-13 小・中講座におけるアンケート質問事項

	'01夏	'02春	'02夏	'03夏	質問回数
参加した動機は？	○	○	○	○	4
良かったプログラムは？	○	○			2
満足度は？(5段階)	○	○	○	○	4
公開講座を何で知ったか？			○	○	2
演習林に来たのは何回目？			○	○	2
職員の対応や説明は？			○	○	2
今後希望する内容は？	○	○	○	○	4
次どの季節に来たいか？		○			1
参加費はいくらが妥当か？				○	1
他にご意見・ご要望は？	○	○	○	○	4
年齢・性別・在住地域は？			○	○	2
質問数	5	6	8	9	

表-14 小・中講座 アンケート結果：参加した動機は？(複数回答可)

(人)	'01夏	'02春	'02夏	'03夏	合計
森林を学びたい	4	3		2	9
樹木を学びたい	2	1			3
動物・昆虫を学びたい			9	9	18
標本づくりをしたい				4	4
森林と水、魚の関係	1				1
自然観察がしたい		7			7
林業を学びたい	2				2
秩父演習林を知りたい	2		1		3
知識を増やしたい	2				2
山歩きがしたい	6	1			7
友人・知人に誘われて		3			3
子供の教育のため			5	1	6
夏休みの宿題のため			4		4
前回楽しかったから	1		1		2
広報を見て		1			1
合計	20	16	20	16	72

'02夏以降には9問となっている。質問事項でこれまで4回出されたものは、「参加した動機は?」、「満足度は?」、「今後希望する内容は?」、「他にご意見・ご要望は?」の4項目であった。

アンケートの集計結果を表-14~16、図-8に示す。「参加した動機は? (複数回答可, 選択+記入)」で回答数が5以上(表-14)であったのは「森林を学びたい」、「動物・昆虫を学びたい」、「自

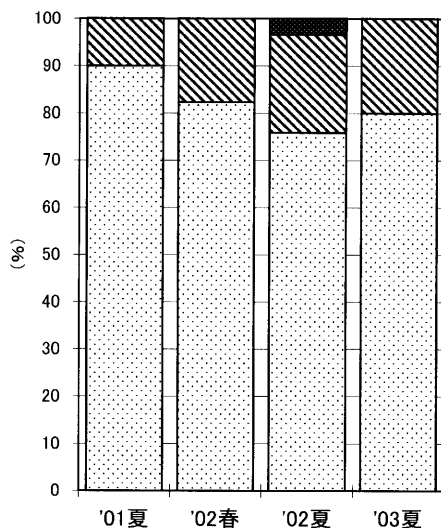


図-8 小・中講座 アンケート結果：満足度は？（5段階）

□ とても満足, ▨ まあまあ満足, ▩ 少し満足, ▤ あまり満足なし, ■ 満足なし。

表-15 小・中講座 アンケート結果：今後希望する内容は？（複数回答可）

(人)	'01夏	'02春	'02夏	'03夏	合計	%
自然観察	17	13	27	8	65	71
（植物観察）			(10)	(2)	(12)	(29)
（生物観察）			(26)	(6)	(32)	(74)
（ハイキング・散策）			(0)	(0)	(0)	(0)
育林体験	4	7	4	2	17	18
演習林の試験・研究	3	1	2	4	10	11
その他	0	0	0	0	0	0
	24	21	33	14	92	100

但し、自然観察の項目は2002夏以降、植物観察、生物観察、ハイキング・散策に分けた。

然観察がしたい」、「山歩きがしたい」、「子供の教育のため」であった。なお森林を学ぶ内容の'01夏と'02春では「森林を学びたい」、「自然観察がしたい」、「山歩きがしたい」が多く、昆虫採取と標本作りを行った'02夏と'03夏は「動物・昆虫を学びたい」が多く、募集要項に書かれている講座内容を見て参加していた。また'02夏では「子供の教育のため」や「夏休みの宿題のため」が多く、小・中講座の開催時期として夏休み期間が適していると考えられた。

「満足度は？（5段階）」については（図-8）、いずれの回でも「とても満足」が76～90%と高かった。「今後希望する内容は？（複数回答可、選択+記入）」では（表-15）、「自然観察」が71%と非常に多く、「育林体験」は18%、「演習林の試験・研究」は11%であった。'02夏と'03夏に「自然観察」と答えた35名に占める「植物観察」、「生物観察」、「ハイキング・散策」の割合は、それぞれ29%、74%、0%であった。

「その他ご意見・ご要望は？（自由記入）」（表-16）では、「次回も参加したい」、「別の季節にま

表-16 小・中講座 アンケート結果：その他ご意見・ご要望・ご感想などを御自由にお書き下さい

(人)	'01 夏	'02 春	'02 夏	'03 夏	合計
次回も参加したい	2				2
別の季節にきたい		3			3
大滝村にまた来たい		1			1
泊まりのセミナーを開催して欲しい			1		1

内容が良かった	1				1
説明が良かった		1			1
パンフレットが良かった		1			1
知識を得られた	1			1	2
自然林を維持する大切さを感じた	1				1

散策しながら自然観察したい		1			1
専門用語が分からなかった			1		1
動物について学びたい	2				2
昆虫観察がしたい	2	1		1	4
水棲昆虫をもっと知りたい	1				1
バードウォッチングがしたい		1			1

駅から事務所まで解り難い	1				1

合 計	11	9	2	2	24

た来たい」などの意見のほか、動物・昆虫・鳥類などを学びたいという意見が寄せられていた。

2.3. エコ講座

2.3.1. 目的と募集方法

エコ講座は、近年、山登り、沢登り、カヌーなど、自然環境に負荷の少ない活動を通して、森林に触れながら学ぶエコツーリズムが屋久島、西表島、白神山地など全国各地で行われるようになってきているが、秩父演習林でも森林と研究成果を生かせるようなエコツーリズムを開催できないものかと'03年7月16日に試行的に開催した。

'03エコの定員は8名とし、募集はWeb Guide 秩父、秩父演習林ホームページ、Be-pal (一般誌)のホームページ、科学の森ニュースへの要綱掲載により行った。6名の応募があり、最終的に4名が参加した。なお安全面の配慮や、エコツーリズム実践のための職員研修を兼ねたため、当日のスタッフは受講者より多い6名が参加した。

2.3.2. 内容、スケジュール、受講者の意見

エコ講座は当初1日目に秩父事務所から自家用車で長野県川上村の毛木平から千曲川沿いに甲武信ヶ岳に登り甲武信小屋で宿泊、2日目は埼玉県と山梨県の県境を雁坂峠まで行き、秩父演習林の樺小屋、突出峠を通過して滑沢に下りる計画であった。しかし実行段階で受講者の徒歩ペースと体力の消耗具合から予定の行程は困難であると判断し、1日目に「亜高山帯の森林の特徴」を説明しながら甲武信小屋まで行き、夜に座学で「奥秩父の山の暮らし」と「甲武信ヶ岳周辺で行われた試験・研究」を講義し、2日目に甲武信ヶ岳を含む秩父山地埼玉県側6カ所で行って

る「高所気温観測の概要」,「秩父山地の縮枯れ現象と仕組み」,「甲武信ヶ岳山頂付近の植物」を講義し,1日目と同じ登山道を引き返して車で秩父まで帰ることにした。

エコ講座ではアンケートを取らずに参加した動機や意見を聞き取った。参加目的として「森林を学びたい」や「知識を増やしたい」のほかに,「これから登山ツアーを企画しているので参考にしたい」や「エコツーリズムに興味があった」という受講者もあり,エコツーリズムに対する関心の高さがうかがえた。

3. 今後の課題と展望

受講者の募集については秩父市報,埼玉県報,新聞の地方版,ホームページなどを通じて行うことにより想定した定員数を集めることができた。またそれらの組み合わせにより秩父郡市内の受講者とそれ以外の地域の受講者の割合や,50歳以上の受講者と49歳以下の受講者の割合を調整することも可能であると考えられた。

森林を散策しながら森林や樹木を学ぶ内容の公開講座を'01秋,'03春,'03秋に行ったが,「とても満足」がそれぞれ80%,56%,57%で(図-4)であった。一方,'02秋にも森林を40分程歩く時間を設けてはいたが,時間が短く自然観察をあまりしなかったため「とても満足」が35%と低くなり,「もう少し歩きたい」や「樹木の名前を学びたい」という意見が多く寄せられた(表-9)。これらのことから森林を散策しながら森林や樹木について学ぶ時間を十分にとることで受講者に対して高い満足感を与えることが示唆された。

森林散策を主とした公開講座の課題としては,今後リピーターの割合が増すことも予想されるので,そうした受講者に何回参加しても新鮮で満足が得られるように散策コースを複数整備し,季節を変えての開催が必要であると考え。一般講座の目的はあくまで一般市民に秩父演習林の概要,活動内容,試験・研究を知ってもらい,同時に森林や林業について正しく理解してもらうことであり,安全な森林散策の場の提供やサービスだけではない。しかし,そのためには受講者に満足してもらうことが大切なので,少人数の職員により効率よく公開講座を開催することや,ボランティアを募るなど職員の負担を軽減しつつ受講者に満足してもらえるような工夫が必要である。

一般講座において'02秋以降「少し満足」という答えが出始めているが,その理由として受講者の森林に対する知識が年々向上していることや他の施設や機関が開催している類似の公開講座や市民教室に参加したことがある受講者が増えてきたため,内容が初級者向きである森林散策と自然観察が中心の公開講座では物足りなさを感じる受講者が増えてきたことや他の公開講座とは違う個性をアピールできていないことなどが考えられた。したがって従来の初級者向けの公開講座のほかに,そうした森林に関する知識の高い受講者のレベルに合った公開講座を開催することが今後必要となる。そのためにも秩父演習林職員が技術や知識を向上させると同時に,専門的な

知識を持ったボランティアを募ったり、公開講座に外部から講師を招いたり、他の機関と連携することが重要になるであろう。

一般講座のアンケートにおける今後希望する内容では、一般講座(表-8)、小・中講座(表-15)ともに「自然観察」がそれぞれ68%、71%と非常に高かったが、「育林体験」はそれぞれ19%、18%、「演習林の試験・研究」はともに11%で、そうした公開講座への要望も決して低くはない。例えば安全に十分配慮した育林体験、秩父演習林の試験・研究を分かりやすく手短かに説明し、簡単な調査実習を通して研究内容を楽しく理解させるような、他の機関等ではなかなかできない個性的なプログラムの開発も可能であろう。秩父演習林がこれまで蓄積してきた成果や知識を生かし、大学の附属施設ならではの独自色のある、アンケートや受講者のニーズを反映した公開講座をどのようにして企画していくのが今後の課題といえよう。

参加費については、講座中のケガや事故への対策としてレクリエーション保険加入料200円を徴収しているが、参加費を値上げして材料や資料、外部からの講師を充実させることも考えていかなければならない。アンケート結果によると200~500円という答えが多く、500円以内が目安となろう。

秩父演習林に対する地域・一般市民の期待はますます増大し、同時に演習林の果たす役割も大きくなるであろう。今後も創意・工夫を重ねながら、社会的な要望に応えていきたい。

謝 辞

秩父演習林職員の諸氏には各公開講座を開催しアンケートを実施していただいた。この場を借りてお礼申し上げる。